

## 文化芸術を取り巻く環境の変化

人口減少社会とライフスタイルの多様化への対応

幅広い情報通信技術の活用

地域の魅力を創出し、独自性のあるまちの実現

## 1 人口減少社会とライフスタイルの多様化への対応

我が国では少子高齢化の進展に伴い、2008年（平成20年）に人口減少社会に推移しました。この状態が続けば、経済の縮小や医療・介護費の逼迫等、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

本市においては、「健康都市やまと総合計画」の推計によれば、今後もわずかに人口増加をし続け、「本計画」の期間が終了する2023年度に約24万人のピークを迎え、その後、緩やかに減少するものとしています。そして、その間も少子高齢化は一層進展し続け、人口構成も大きく変わることが予想されています。

こうした中で、我が国の平均寿命は男女ともに80歳を超えたことから、「人生100年時代」との言葉どおり、定年後も自らの能力を発揮し、また新たな才能を発掘することで、意欲的に自分らしいセカンドキャリアを築く人が増えています。また、生涯未婚率の上昇やパートナーとの死別等により、いわゆる「おひとりさま」と呼ばれる単身者が増えたことは、地域コミュニティの形成やビジネスにおけるサービス提供の在り方に変化をもたらすなど、人の一生の捉え方の変化やライフスタイルの多様化が社会に与える影響には今後も注視していく必要があります。

このような社会状況の変化に対応するため、文化芸術の振興を図りつつ、あらゆる分野との幅広い連携を強化し、年齢や障がいの有無、経済状況等に関わらず、誰もが文化芸術に親しめるための環境整備を推進し、文化芸術によって生み出される多様な価値を、地域の諸課題の改善や解決につなげる総合的な取り組みが求められます。





## 文化芸術を支える 基盤の脆弱化

### 文化芸術活動の環境整備

市民による活発な文化芸術活動は、本市の文化芸術を支える重要な基盤です。しかし、今後確実に訪れる人口減少社会は、その基盤の脆弱化を招く大きな懸念となります。

市民の文化芸術活動が将来にわたり安定して行われるためには、あらゆる担い手と協力し、人的、金銭的等のあらゆる面で活動を支えるための環境を一体となって整備する必要があります。

## 深刻な文化芸術の 担い手不足

### 文化芸術の未来への継承

文化芸術は、長い年月をかけて多くの人々の力によって形づくられるものですが、少子高齢化の進展は深刻な後継者不足、文化芸術団体等を構成するメンバーの高齢化を招き、活動の硬直化、単調化から、円滑な継承の妨げとなる恐れがあります。

そのため、すべての人々が文化芸術を担い、その継承者となりうるものとして捉え、活動を始めるきっかけづくりや継続的な活動につなげられるよう、それぞれの対象に合わせた多角的な支援が求められます。

## 地域コミュニティの 衰退への懸念

### 文化芸術による居場所づくり

居住年数の浅い若い世代や単身者は地域とつながる機会が比較的に少なく、地域との関係性が希薄となる傾向にあります。また、そのような世帯の増加は地域コミュニティの衰退の一因ともなることから、人と地域をつなぐ取り組みが求められています。

そのことから、文化芸術が活気あるコミュニティ形成の契機となるものとして一層の期待が寄せられています。地域の中で誰もが気軽に集える「文化芸術による居場所づくり」を推進するため、あらゆる分野との連携を図る必要があります。

## 2 幅広い情報通信技術

### (Information and Communication Technology:以下、ICT)の活用

パソコン技術の向上やインターネットの普及によるICTの発展は、今やあらゆる分野で活用が進み、私たちの生活に多大な利便性をもたらすものとして一定の地位を占めるようになっていきます。そして、このような技術の発展および活用は今後ますます加速するものと予想されます。

その主な原動力となっているのが、スマートフォンの急速な普及が挙げられ、2017年版(平成29年版)情報通信白書(総務省発行)によれば、スマートフォンの保有率は、2016年(平成28年)には国内の世帯単位で7割、個人単位でも5割を上回っており、2011年(平成23年)からの5年間で比較して約4倍にまで上昇しています。

そして、スマートフォンの普及と同時に広がりを見せるSNSの発展は、誰もが情報の発信者として短時間かつ広範に情報を伝達することを可能にし、また、それらを楽しむことを容易にするなど、情報伝達の在り方を大きく変容させました。

これらICTを文化芸術活動に活用することで、その成果の普及や発信および享受を通じ、広範な人と文化芸術とのつながりを強め、多様な活動の展開に大きく貢献することが期待されます。

一方で、ICTの発展は、人と人とのコミュニケーションのあり方を大きく変え、その場にいながら世界中とのあらゆるつながりを生み出す反面、直接対面して交流する機会を減少させ、「Face to Face」による人間関係、コミュニティの希薄化が指摘されるなど、新たな社会的課題として認識されています。

このような課題に対して、他者と共感し合う心を養い、人間相互の理解を促進するという文化芸術の社会的価値が見直され、その役割に大きな期待が寄せられています。





### あらゆる情報が溢れる社会

#### 情報発信のプラットフォームの構築

文化芸術に関する情報は、市のほかに各施設、文化芸術団体等がそれぞれ発信しており、情報が分散している状態にあります。あらゆる情報が溢れる現代において、そのような情報が埋もれ、必要としている人の目に触れられないという事態が発生しています。

文化芸術に関する情報発信機能を強化するため、分散している情報を集約、整理するプラットフォームを構築し、誰もが容易に必要な情報を得られるよう、効果的な情報提供の在り方への転換が必要になります。

### 新たな情報媒体の活用

#### S N S等を活用した情報媒体の充実

本市の情報発信は、「広報やまと」を中心に、ホームページ等を媒体に行っていますが、その効果は一定程度にとどまり、必ずしも必要な情報が届いているとは限りません。特に若い世代は、上記のような情報媒体に触れる機会が少なく、イベント等の認知状況も良くないのが現状です。

あらゆる世代に対して確実に情報を届け、文化芸術とつなぐため、従来の広報媒体に加え、若い世代を中心に利用が進んでいるS N S等の活用を推進します。

### 人と人とのつながりの希薄化

#### 文化芸術活動による交流の促進

顔の見えないI C Tによる人間関係の構築は、人と人とのつながりを希薄化させる懸念があります。特に、人の生き方や考え方が多様化する現代にあっては、ひとり一人が互いの生き方や考え方を理解し、認め合うための本来のコミュニケーションが必要とされています。

文化芸術を通じた交流には、人と人との直接出合いやふれあう機会を生み出すとともに、そのつながりを深め、一層広げていくことが期待されています。

### 3 地域の魅力を創出し、独自性のあるまちの実現

日々グローバル化が進む我が国では、多くの人々が国境を越えて行き交い、国内外の交流が盛んに行われています。特に文化芸術を通じた国際交流は、文化の多様性や互いの価値観への理解を促進することからその重要性が一層増しています。

一方で、前項で取り上げたICTの発展も相まって、人と人との交流のほか、その場にながら国内外のあらゆるモノやサービスの提供を受けられるようになりました。このことは、地域の個性が損なわれる「文化の均質化」を招き、市民の地域に対する愛着意識を薄れさせることが懸念されています。

解決のためには、より多くの市民が地域に愛着を感じ、「住み続けたい」と思われるまちづくりの取り組みが必要であり、文化芸術の観点からは、その多様な価値をまちづくりに生かし、大和らしい魅力あるまちを形成することが求められます。

また、「東京2020大会」はスポーツの祭典と同時に文化の祭典であることから、我が国では、これを契機とする「文化プログラム」の全国展開を図ることとしています。各地域の文化芸術を広く発信するとともに、「文化プログラム」によって創出された新たな文化芸術の価値を大会開催後も遺産（レガシー）として残し、まちの魅力として活用していくことを考えなければいけません。





### 多様な文化に 親しむ

#### 文化芸術を通じた国際交流

本市には75ヶ国という多様な国籍、地域と、総人口のおよそ3%にあたる6,500人を超す外国人市民が在籍しており、そのうち少なくとも60%以上が永住者として暮らしています。

このような方々の存在は、本市の多様な文化を形成する上で重要な役割を担っていることから、「条例」に掲げる「多文化共生のための施策」の更なる推進を図り、文化芸術による国境を越えた交流が活発になることは、大和らしさを創出する大切な要素となります。

### 地域への理解、 愛着を育む

#### 歴史的文化財の保存および活用

地域に伝わる伝統行事や歴史的な文化遺産の数多くは、市民の貴重な財産として継承されています。これら文化財は地域の歴史や文化を認識させ、地域への理解や愛着を育み、個性あるまちづくりの基礎となるものです。

文化財を確実に次代へ継承しつつ、公開、活用等の積極的な鑑賞機会の提供を通じ、文化財に対する市民への理解と、新たな価値の創出を図ることが求められます。

### まちの活力を 増進する

#### 文化芸術によるまちの魅力づくり

文化施設等で行われる文化芸術活動は、その周辺の観光、産業、まちづくりなど、まちの活力を増進するあらゆる分野への波及効果が極めて高いものと考えます。

これらの分野との連携を密にし、文化芸術による魅力あるまちの形成につなげることで、「住み続けたい」、「住んでみたい」と選ばれるまちの実現に寄与するとともに、そのことによって得られた成果を文化芸術の振興に生かす総合的な取り組みが必要になります。

